

取り立て助詞「ばかり」と“浄”の意味と用法

張 建華 中野 洋
外国人特別研究員 言語体系研究部

国立国語研究所

e-mail: [hana, nakano]@kokken. go. jp

【概要】

‘限定’の意味を表す取り立て助詞に対応する中国語の表現は実に多様である。これは第二言語習得や機械翻訳における大きな問題である。本稿はその解決法を求める基礎研究として、日本語の取り立て助詞「ばかり」と中国語の範囲副詞“浄”を取り上げ、文法的な意味と構文的パターンを結び付ける方法を用いて、両者の意味と用法における対応関係の分析を行った。その結果、①“浄”と「ばかり」は、基本的意味では同じであるが、前者は語彙的な意味としてマイナス評価ということを含むが、後者は評価に関して中立的であるという評価における相違がある。②用法においては、「ばかり」には“浄”にない『性質・状態の一方的深化・強化』という用法も含まれている、という二つの点が明らかになった。

The meaning and usage of Japanese bakari and Chinese jing

ZHANG Jianhua NAKANO Hiroshi

The National Language Research Institute
e-mail: [hana, nakano]@kokken. go. jp

Abstract

There is a great variety of focus expressions in Chinese that express the meaning of "limit," which poses major problems for second-language learning and machine translation. This study seeks to lay the groundwork for a solution by analyzing the correspondences between the Japanese focus particle bakari, and the Chinese adverb of extent jing, relating their grammatical meanings with the sentence patterns in which they are used. The principal findings are: (1) Both jing and bakari have the same basic meaning, but while the former includes "negative evaluation" as part of its lexical meaning, the latter is neutral; (2) bakari has a usage which expresses the continual deepening or intensification of a situation, which is not found with jing.

0. はじめに

日本語の取り立て助詞には様々な中国語の表現が対応する。特に‘限定’の意味を表す取り立て助詞に対応する中国語の表現は実に多様である。例えば、「ばかり」に相当する意味を表す表現には“净 尽 光 都 全 总 老 一直 越…越… 更加 愈加 简直”などがある。本稿では、この中から「ばかり」と重なる部分が最も多い“净”をとりあげ、「ばかり」との比較対照をおこなう。

1. 「ばかり」と「净」の文法的機能

日本語の「ばかり」と中国語の“净”の基本的な意味はかなり似ているが、まったく同じように用いられるわけではない。

まず、「ばかり」と“净”は文法的カテゴリーが異なる。「ばかり」は助詞であり、名詞、動詞、形容詞などさまざまな要素の後につくことができる。一方、“净”は副詞（中国語文法でいう範囲副詞）であり、通常動詞の前におかれる¹。

- (1) a. 你说的净是废话。²
 b. お前が言ったのはくだらないことばかりだ。
 (2) a. 他净干这玄事儿。（侯宝林相声选）
 b. 彼はいつもこんな危ないことばかりをやってる。（筆者訳）

また、「ばかり」は書き言葉にも話し言葉にも用いられるが、“净”は話し言葉にしか用いられない。

	ばかり（話し言葉・書き言葉）	净（話し言葉）
文法的カテゴリー	助詞（取り立て助詞）	副詞（範囲副詞）
文中での位置	取り立てられる要素（名詞、動詞、形容詞、副詞など）の後	動詞の前に限定

表1 「ばかり」と“净”の文法的機能

2. 「ばかり」と“净”の基本的な意味

「ばかり」と“净”の基本的な意味は次のようにまとめられる。

- ① 当該の要素と範列的な (paradigmatic) 関係にある類似の要素からなる集合から、明示されていない要素が排除される。（限定）
 ② ある範囲のどの部分をとっても当該の要素で満たされており、それ以外のものは存在しない。

- (3) a. 本棚の上は英語の本ばかりだ。
 b. 书架上 净 是英语书。
 (4) a. 这些日子 净 刮大风,没个好天。
 b. この2、3日は強い風ばかり吹いて、よい天気の日はない。
 (3a)(3b)では、「ばかり」と“净”のいずれも「『本棚』という空間の中のどの部分をとっても『英語の本』で満たされており、それ以外のものは存在しない」ということを表

¹中国語では修飾語は被修飾語の前におかれる。“净”に限らず、副詞は通常述語の前におかれる。

² 出典のない用例は筆者による作例である。日本語の作例はネイティブスピーカのチェックを得た。

し、(4a)(4b)においても、「ばかり」と“浄”は同様に「『この2、3日』の間、もっぱら『強い風が吹く』という悪天気が続く」という意味を表している。

3. 評価性

市川保子(1991), 杉本和之(1992), 西原鈴子(1987)では、「ばかり」を用いた文は「非難」などのマイナス評価を含むことが多いと述べている。これに対し、張(1996)では、“浄”はそれ自体の語彙的な意味としてマイナス評価ということを含むが、「ばかり」は評価に関して中立的であり、マイナス評価という意味は文脈から生ずる意味にすぎないという主張をおこなった。

- (5) a. 这一带 浄 是 工場。
 b. この辺りは工場ばかりです。
 (6) a. 从上周起 浄 练习发音了。
 b. 先週から、発音ばかり練習している。

(5a)(6a)はマイナスの意味が含まれている。(5a)では、話者の「工場」が満たしており、期待しているものは存在しないことに対するマイナス評価が読み取れ、(6a)では、「练习发音」の動作が一方向的に反復され、望んでいるそれ以外の動作が行われないことに対する話者のマイナス評価が含まれる。

一方、「ばかり」を用いた(5b)(6b)は文脈によってはマイナス評価が読み取れることもあるが基本的には中立的である。次の例についても同じである。

- (7) a. 毎日雨ばかり降っている。
 b. 毎日雨ばかり降るので、ものがすっかりかびてしまった。
 (8) a. 太郎は毎日勉強ばかりしている。
 b. 太郎は勉強ばかりしていて、家のことを何も手伝ってくれない。

「ばかり」自身にはマイナス評価という意味は含まれていないために、(7a)(8a)のように何の文脈もない場合は評価に関して中立的である。しかし、(7b)(8b)のようにマイナス評価を含む文脈で用いられるとマイナスの評価が読み取れるようになる。

4. 「ばかり」と“浄”の用法

上述のように、「ばかり」と“浄”はいずれも「限定」「同質のものが充満する」という基本的意味を有するが、両者には評価性において相違がある。また、用法においても両者は常に対応するわけではない。以下では「ばかり」と“浄”の用法の対応関係を分析していく。

4.1. 具体的事物による等質性

4.1.1 空間的範囲を等質的に満たす場合

「ばかり」「浄」によって取り立てられる対象がある空間的範囲を等質的に満たしており、その他の同類のものは存在しないことを表わす場合、「ばかり」と“浄”は対応が見られ、それぞれ次のような構文パターンを取っている。

「ばかり」	1 「場所を示す名詞句+は+名詞句+ばかり(だ)」
	2 「場所を示す名詞句+に+名詞句+ばかり+動詞」
“浄”	1' 「場所を示す名詞句+浄+是+名詞句」
	2' 「場所を示す名詞句+動詞+的+浄+是+名詞句」

- (9) a. この辺りは山ばかりです。
 b. 这一带 浄 是 山。

- (10) a. 「三畳の部屋に道具ばかり並んじゃっててサ。」(芥川『若者の旗』)
 b. “三帖大的屋子里放的 净 是 工具。”
 (11) a. 四方は海ばかり。(小さな社会)
 b. 周围 全/都 是海。
 (12) a. 冷蔵庫の中は卵ばかりだ。
 b. 冰箱里 全/都 是鸡蛋。

(9)(10)は「ばかり」が「净」と対応する例である。(11)(12)では「ばかり」は評価性が含まれないので「净」には訳せない。この場合「ばかり」は「総括」を表わす副詞“全”“都”に訳するのが適切である。

4.1.2 主題の指定する範囲を等質的に満たす場合

「ばかり」「净」によって取り立てられる対象が、主題によって指定される意味的な範囲の中を等質的に満たして、その他のものは存在しないという場合においても、「ばかり」とは「净」の対応が見られる。この場合は、「ばかり」は、

「名詞句+は+名詞句+ばかりだ」

の形をとることが多いのに対し、「净」は

「名詞句+净+是+名詞句」

の形をとる。

- (13) a. 何しろ相手は無教育な奴ばかりだから話にならんのだ。(国境の夜)
 b. 对方 净 是 些没有受过教育的家伙, 根本讲不通道理。(筆者訳)
 (14) a. 飛行機は、東に向って飛ぶものばかりだった。(卵とペーコンの朝食)
 b. 飞机 都/全 是开往东边的。(筆者訳)

(13)では、「ばかり」は「净」と対応するが、(14)はマイナスの評価を含まないので、「全」“都”に訳するのが適切である。

4.1.3 動作の対象、その他の範囲を等質的に満たす場合

「ばかり」が

「名詞句+ばかり(+格助詞)+動詞」

の形をとる場合、反復的(あるいは連続的)に行われる動作の対象、場所、起点などの範囲が「ばかり」によって取り立てられる名詞句が表す事物によって等質的に満たされていることを表す。例えば、

- (15) この三日間パンばかり食べている。

でいえば、「ばかり」は「食べる」という反復的な動作の対象が三日間とも「パン」で占められているということを表す。この場合、「ばかり」を用いた文はマイナス評価が読み取れば、「净」に訳し、そうではない場合、「都/全」などに訳す。いずれも、「净/全/都+動詞+名詞句」という構文になる。

- (16) a. この三日間パンばかり食べたので、もう飽きてしまった。
 b. 这三天 净 吃 面包,都吃腻了。(マイナス評価)
 (17) a. このところ優勝校は九州地方からばかり出ている。(寺村秀夫1991)
 b. 最近 冠军学校 都是从九州地区出。(筆者訳)(中立的)
 (18) a. 父は、君たちも御承知のとおり、××汽船の調査室に勤めていて、書斎と調査旅行にばかり時間を費している人であったが、
 b. 正像你们知道的,我父亲在某轮船公司的调研室工作,是个把时间 全 用于书房和调查旅行的人,(吴雅琴1987)(中立的)

4.2. 動作行為の反復・持続

「ばかり」が「動詞テ形+ばかり+いる」³あるいは「動作性名詞+ばかり+している」といった構文で用いられる場合、ある時間的範囲が主体によって反復的（あるいは連続的）におこなわれる動作で満たされているということを表す。この場合、マイナスの評価が読み取れる文脈では「ばかり」は“浄”と訳すことができる。そうではない場合は“老”“光”“一直”などの副詞に訳すのが適切である。

- (19) a. 「君は、僕の時間にはあくびばかりしている。一時間に百回あくびする。」
(晩年)
b. 你在我的课上 净 打哈欠。一小时打了一百个哈欠。(筆者訳)
- (20) a. 見てばかりいるのはつまらないから……。 (初級日本語)
b. 光 看没有意思。(筆者訳)
- (21) a. そんなら揉んだらいい、たたいてばかりいたって、(晩年)
b. 那样的话就揉一揉 老 敲也不行。
- (22) a. その日いちにち寝てばかりいた。(晩年)
b. 那天一整天我 一直 睡觉。

4.3. 性質・状態の一方的深化・強化

「ばかり」は「動詞ル形+ばかりだ」「形容詞+ばかりだ」という形式で用いられる場合、抽象的な性質や状態あるいは感情が、意識の範囲を一方的に満たすことにより、その性質・状態或いは感情が一方的に深化・強化される結果になるという点在前面に出されている場合が多い。このような派生的な用法が“浄”には見られない。「ばかり」が感情や情動を表す動詞あるいは形容詞につく場合は、中国語では程度が甚だしいことを表す副詞「简直」が用いられる。

- (23) a. そのヒステリックな態度にただあきれるばかりでした。(KWIC)
b. 那种歇斯底里的态度 简直 没法说。
- (24) a. 懸命に苦慮する姿は痛々しいばかりだった。(KWIC)
b. (他那) 苦思苦想的样子 简直 令人可怜。(筆者訳)

「ばかり」が量的、程度のな変化の意味を伴う動詞につく場合、中国語では「越…越…」「更加」「愈加」など、程度が時間や事態の発展につれ、強化されることを表す副詞に訳すことができる。

- (25) a. 生活は苦しくなるばかりです。(感傷旅行)
b. 生活 越 来 越 / 更加 苦了。
- (26) a. 啓造も夏枝も不安はつるばかりであった。(氷点)
b. 啓造和夏枝 愈加 不安了。(筆者訳)

また、「ばかり」が引用節につく場合、つまり「(引用節)+とばかり+思っていた/信じていた」の形をとる場合、現実に対する認識という抽象的範囲がある特定の思い込みで満たされていることを表す。この場合は「一直(以為/相信)」を用いるのが適切である。

- (27) a. それまでは私も藝人たちと同じ旅館に泊ることとばかり思っていたのだった。
(伊豆の踊子)
b. 在这之前. 我 一直 以为我也和卖艺人同住一个旅馆。(筆者訳)

以上をまとめると、次の表の通りになる。

³この場合、動作を表す動詞に限っている。

用 法	ばかり	浄	全 都 光 老 总 一直など	越…越… 更加・愈加	简直
1 具体的事物による等質性	○	○	○	×	×
2 動作行為の反復・持続	○	○	×	○	×
3 性質・状態の一方的深化・強化	○	○	×	×	○

表2 「ばかり」と“浄”の用法における対応関係

5. まとめ

‘限定’の意味を表す取り立て助詞に対応する中国語の表現は実に多様であるが、本稿は日本語の取り立て助詞「ばかり」と中国語の範囲副詞“浄”を取り上げ、文法的な意味と構文的パターンを結び付ける方法を用いて、両者の意味と用法における対応関係の分析を行った。その結果、①“浄”と「ばかり」は、基本的意味では同じであるが、前者は語彙的な意味としてマイナス評価ということを含むが、後者は評価に関して中立的であるという評価における相違がある②用法においては、「ばかり」には“浄”にない『性質・状態の一方的深化・強化』という用法も含まれている、という二つの点が明らかになった。

今後この研究結果をふまえた上で、“浄”以外の副詞についても、「ばかり」との比較対照を行い、さらに将来的には日本語の取り立て助詞と中国語の範囲副詞の全般的な対応関係についても考察し、日本語・中国語間の機械翻訳のための基礎研究としたい。

<謝辞>本研究は平成8年度文部省科学研究費補助金（特別研究員奨励費）『日本語の取り立て助詞とそれに対応する中国語の表現に関する研究—機械翻訳高度化のために—』による研究成果の一部である。日本学術振興会の援助に感謝する。また、本研究にあたり有益な助言を下された国立国語研究所の研究員井上優氏に感謝の意を表する。

参考文献

- 市川保子(1990)「たりたて助詞と発話・伝達のモダリティに関する一考察」『文芸言語研究言語編』19 筑波大学文芸言語学系
- 国立国語研究所(1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』秀英出版
- 小松光三(1994)「副情報詞（副助詞）の意味機能と体系」『法文学部論集 文学部編』27, 愛媛大学法文学部
- 杉本和之(1992)「『ばかり』と『だけ』」『中京国文学』11, 中京大学国文学会
- 張 建華(1996)『日中両語における取り立て表現の対照研究—「だけ」「ばかり」「しか」と“只”“浄”を中心に—』東京外国語大学大学院地域文化研究科博士論文
- 田中里美(1993)「ことばの評価性」『日本語・日本語文化研究』大阪外国語大学日本語講座
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 西原鈴子(1987)「談話構造における助詞の機能」『日本語教育』62
- 沼田善子(1992)「とりたて詞と視点」『日本語学』1992/8, 明治書院
- 樋口文彦(1989)「評価的な文」『ことばの科学』むぎ書房

出典

<日本語>

秋田雨雀『国境の夜』／川端康成『伊豆の踊子』／吳雅琴『日本語・中国語対応表現用例集Ⅷ—日本語の取り立て助詞に対応する中国語—』（略称「吳雅琴1987」）／曾野綾子『卵とベーコンの朝食』／東京外国語大学附属日本語学校編『初級日本語』／田辺聖子『感傷旅行』／太宰治『晩年』／星新一『小さな社会』／三浦綾子『氷点』／山内久『若者の旗』（シナリオ）／植村俊亮編『電子計算機による自動索引の研究（上）（下）』（略称「KWIC」）

<中国語>侯宝林相声选